



令和7年度

粟生津小学校グランドデザイン

【 学校教育目標 】

考える 助け合う やりぬく

【 目指す子ども像 】

めあてをもって取り組み、仲間と共に高め合って伸びていく子ども

知 考える

自分の考えをもち、進んで学ぶ子

目指す姿

- 国語・算数の単元テストで、学年の平均点が到達率以上の学年が5学年以上。
- 「授業が分かる」と答える子どもが85%以上。(児童アンケート)
- 「自分の思いや考えを伝え合い、考えを深めることができた」と答える子どもが85%以上。(児童アンケート)

主な取組

- 「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」を児童が実感できるような授業づくりを目指します。
- 授業の中で、自分の思いを考える時間を設定し、互いに伝え合ったり、話し合ったりする活動を複数の教科で取り入れます。
- 「学年×10分間以上」の家庭学習に取り組めるように、家庭と連携しながら支援を進めます。

徳 助け合う

友達を大切にし、なかよくする子

目指す姿

- 「他の学年の人達と遊んだり、活動したりするのは楽しい」と答える子どもが80%以上。
- 「先生や友達に進んであいさつができる」と答える子どもが90%以上。
- 「相手の立場や気持ちを考えて接することができた」と答える子どもが80%以上。(全て児童アンケート)

主な取組

- 「全教職員が全校の担任」との意識をもち、子ども一人一人に寄り添った教育を推進します。
- 児童会活動と連携し、縦割り班活動を充実します。
- 学年や児童会を主体とした「あいさつ運動」を実施します。
- いじめ見逃しゼロ強調月間の取組を行い、子どもたちが互いの存在を認め合い、尊重し合う活動を推進します。

体 やりぬく

進んで体づくりに取り組む子

目指す姿

- 「めあてを持って運動したり身体を鍛えたりすることが好き」と答える子どもが90%以上。(児童アンケート)
- 体力テストで男女それぞれ総合評価B以上の学年が半数以上。
- 元気アップ週間で目標就寝時間を3日間以上達成できた子どもが75%以上。

主な取組

- 体育の授業で「柔軟性」「筋力」「持久力」が付くような動きを特に意識して行います。
- 体育的行事の際には、チームワークや基礎基本の動きを重視しながら、個々に合っためあてを設定して取り組みます。
- 基本的な生活習慣の改善と実施に取り組む指導を実施します。
- 元気アップ週間の結果を家庭と共有し、生活習慣とメディア利用の改善を図ります。

～子どもが真ん中、社会に開かれた粟小の共育～

保・中との連携

- 「育てたい子どもの姿」を共有し、粟生津で生きる子どもを育成します。
- 保⇄小、小⇄中との情報交換を密に行い、きめ細かい指導に生かします。
- 保小中の交流を積極的に行い、小1プロブレム、中1ギャップの解消に努めます。

家庭との連携

- 学校と家庭で密に情報を共有し、同じ目線で子育てに取り組めます。
- 保護者アンケート等の声を生かした教育活動を展開します。
- 学校・学級だより、ホームページ等により、適宜学校の様子を伝えます。

地域との連携

- 学校運営協議会を核としたコミュニティスクール化を推進します。
- 地域の人材・施設・企業や地域住民のボランティアの支援を募り、教育活動の充実を図ります。
- 長善館を始めとする燕市の地域教材を学ぶ機会を設けます。

家庭・保小中・コミュニティ・スクール(学校運営協議会)における連携・協働

*「共育」とは、学校・家庭・地域・関係諸団体が、共に子どもたちを育てるという造語。